

図表30 労働時間の二極化と総実労働時間の推移

労働時間の二極化

週の労働時間が「35時間未満の者」及び「60時間以上の者」の全体に占める割合がともに増加する一方、「35時間以上60時間未満の者」の割合が減少し、「労働時間分布の長短二極化」がみられ、特に、30代の男性で週の労働時間が60時間以上の者の割合が高い。

	平成5年	平成18年	差
週35時間未満の者	929万人 18.2%	1205万人 22.5%	+276万人 +4.3ポイント
週35時間以上 週60時間未満の者	3625万人 71.1%	3553万人 66.4%	▲72万人 ▲4.7ポイント
週60時間以上の者	540万人 10.6%	580万人 10.8%	+40万人 +0.2ポイント
合計	5099万人	5353万人	+254万人

30代男性で週労働時間60時間以上の者

	平成5年	平成18年	差
週60時間以上の者	153万人 20.3%	188万人 21.7%	+46万人 +1.4ポイント

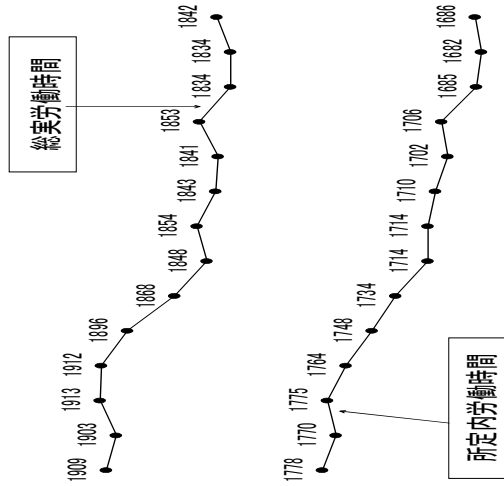
(資料出所) 総務省統計局「労働力調査」

(注) 上の表は雇用者についてのもの。ただし、「30代男性で週労働時間60時間以上の者」については、統計上の制約から、雇用者のみの数値が得られないため、下の表は雇用者だけでなく自営業主と家族従業者を含んだ就業者数により作成。

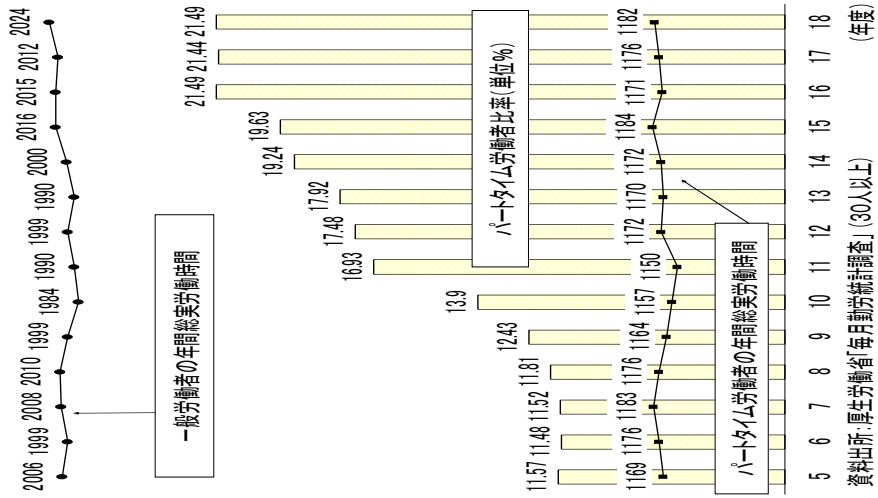
総実労働時間の推移

近年、全労働者平均では労働時間は減少してきたが、これは主にパートタイム労働者の比率が増えたことが要因であり、一般労働者及びパートタイム労働者ともに労働時間数は横ばいの状況。

年間総実労働時間の推移(パートタイム労働者を含む)



就業形態別年間総実労働時間及びパートタイム労働者比率の推移



資料出所:厚生労働省「毎月労働力調査」(30人以上)

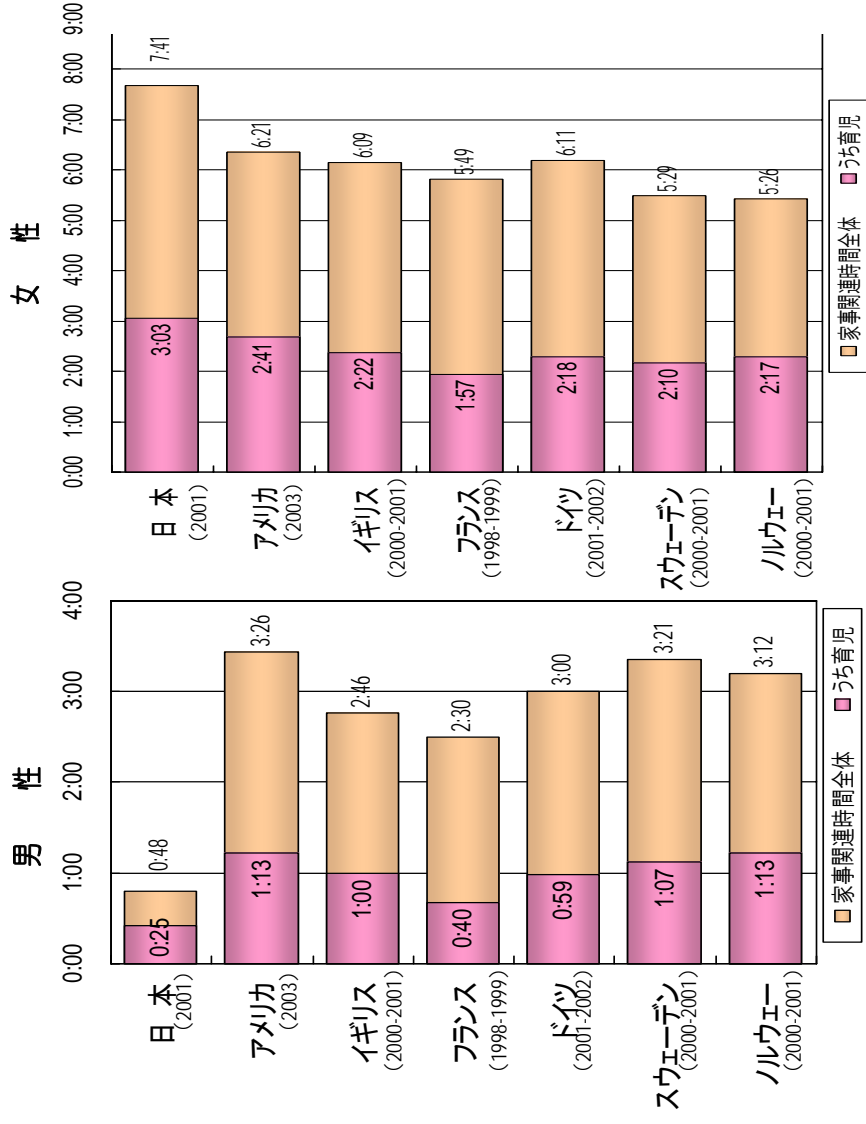
(年度)

(年度)

図表31 日本人男性の家事・育児時間

日本人男性の家事・育児時間は、非常に短い。

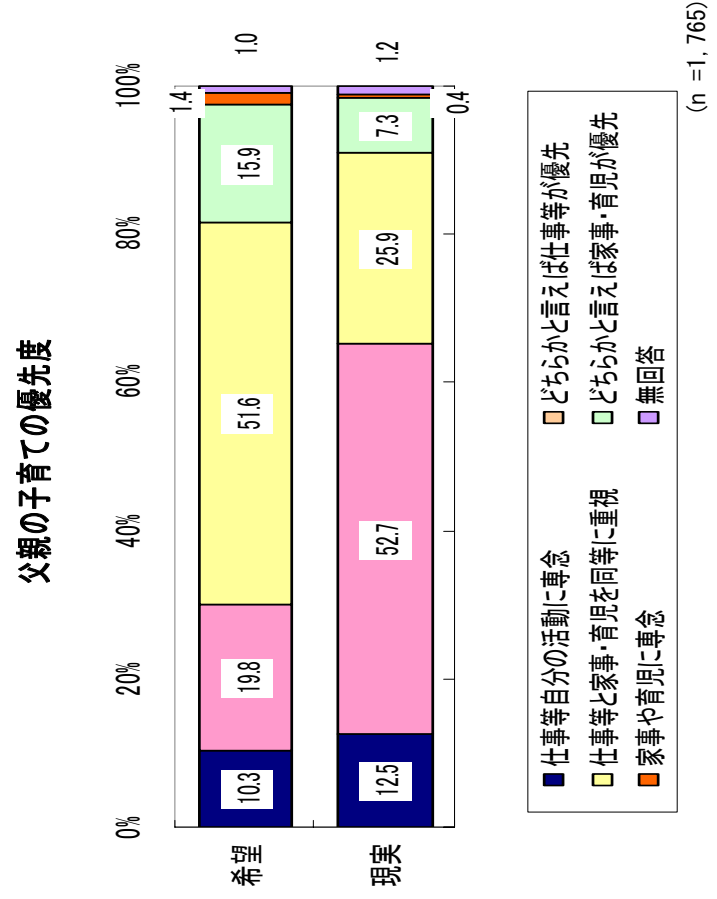
6歳未満児のいる男女の育児、家事関連時間(週全体)



(注) 各国調査で行われた調査から、家事関連時間(日本:「家事」、「介護・看護」、「育児」、「買い物」の合計、アメリカ:「Household activities」、「Purchasing goods and services」、「Caring for and helping household members」、「Caring for and helping non-household members」の合計、欧州:「Domestic Work」と、その中の育児(Childcare)の時間を比較した。

資料: Eurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men" (2004)、Bureau of Labor Statistics of the U.S. "America Time-Use Survey Summary" (2004)、総務省「社会生活基本調査」(平成13年)

未就学児の父親は、子育てと仕事を同様に重視したいと希望しているが、現実には仕事を優先。



資料出所: UFI総合研究所「子育て支援策等に関する調査研究報告書」(平成15年) 調査対象: 未就学児を持つ父親 (n = 1,765)